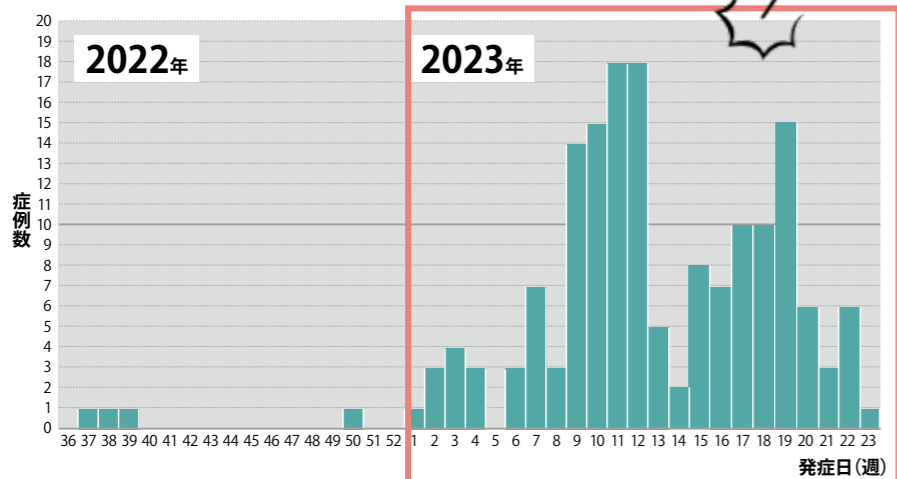


2023年に入り
患者の報告数が
増加



患者数

図1 国内の発生状況



昨年7月に国内1例目の患者
今年になって急増

WHOによると、昨年5月以降、従前のエムポックス流行国への渡航歴のないエムポックス患者が世界各地で報告されていますが、今年3月時点では全体の症例の報告数は減少傾向になっています。しかし、日本では昨年7月に1例目の患者が確認され、その後散発的に発生し、今年に入ると患者の報告数が増加しています。

出典：「エムポックス」厚生労働省ページより

治療と
予防

治療薬やワクチンの
臨床試験が進行中



検査

気になる症状があれば
最寄りの医療機関へ

エムポックスを疑う症状が見られた場合、最寄りの医療機関に相談してください。医療機関にかかる際には、マスクの着用や発疹部位をガーゼなどで覆うなどの対策をしたうえで受診してください。

エムポックスについての
情報はこちら



エムポックスを正しく知る

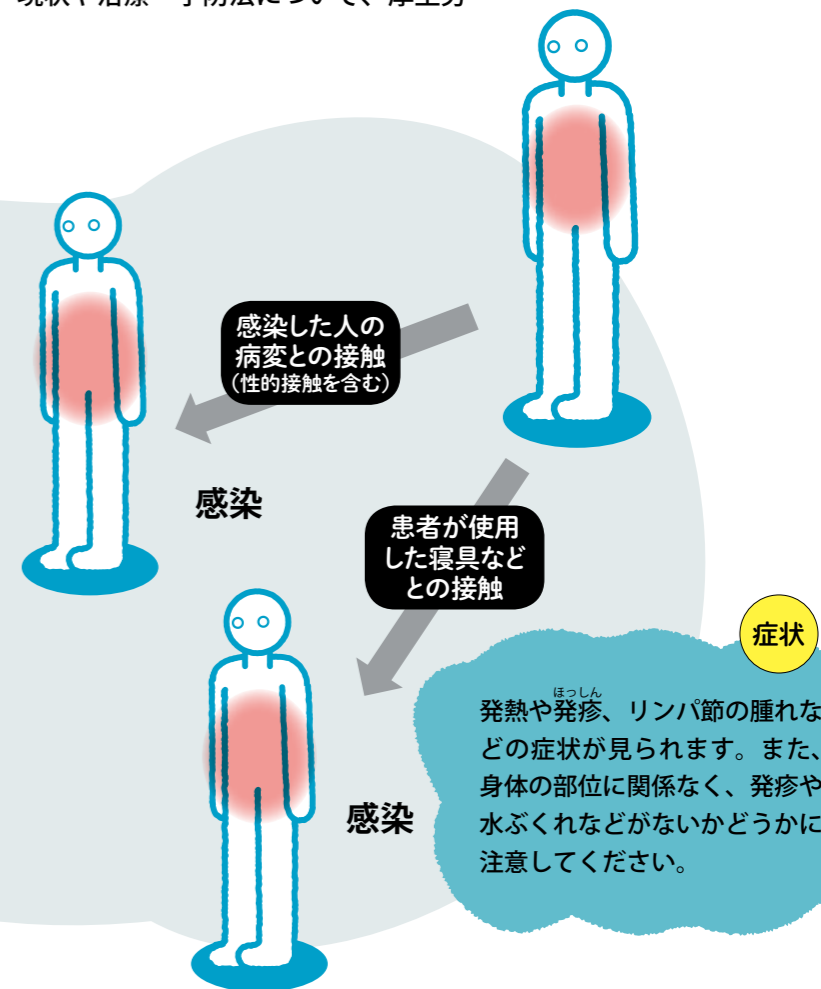
差別・偏見を生まないための知識を持つ

エムポックスは、中央アフリカから西アフリカにかけて地域的な流行が見られる感染症です。昨年5月以降は世界各地で患者が発生し、日本国内でも同年7月に1例目の患者が確認され、今年になってからも患者数が増加しています。エムポックスについての基本的な情報とあわせて、現状や治療・予防法について、厚生労働省の担当者に聞きました。

解説
健康局結核感染症課 課長補佐
エイズ対策推進室 室長
杉原 淳

エムポックスとは……

オルソポックスウイルス属のエムポックスウイルスによる感染症です。主に、感染した人や動物の皮膚の病変・体液・血液との接触(性的接触を含む)や、近距離での対面で飛沫に長時間さらされること、患者が使用した寝具等との接触などにより感染します。サルからはじめて見つかったため「サル痘(monkeypox)」と呼ばれてきましたが、昨年11月に世界保健機関(WHO)により国際的に「MPOX」という名称に変更になり、今年5月に日本においても「エムポックス」という名称に変更されました。



感染した場合は、症状に合わせた治療法を行います。国内で利用可能な承認された治療薬はまだありませんが、米・欧州などで承認された治療薬を用いた臨床研究を実施しており、日本でも投与できる体制を整えています。また、天然痘ワクチンによって約85%の発症予防効果があるとされていることから、我が国で開発・製造されている天然痘ワクチンを投与することで発症を予防する研究も進んでいます。

日本では、まだなじみの薄い感染症であることから誤った情報や偏った知識からの差別・偏見が懸念されます。正しい知識と判断、対応をお願いします。

エムポックスに感染した場合、一般的には発熱や発疹、リンパ節の腫れなどの症状が見られます。発疹は体の部位に関係なく出現しますが、特に顔や口、手足、肛門、性器、臀部での発生に注意が必要です。多くの場合、2〜4週間症状が持続した後、自然軽快しますが、免疫不全の方など、まれに重症化するケースが報告されています。

感染した場合は、症状に合わせた治療法を行います。国内で利用可能な承認された治療薬はまだありませんが、米・欧州などで承認された治療薬を用いた臨床研究を実施しており、日本でも投与できる体制を整えています。また、天然痘ワクチンによって約85%の発症予防効果があるとされていることから、我が国で開発・製造されている天然痘ワクチンを投与することで発症を予防する研究も進んでいます。

感染すると発疹やリンパ節の腫れなどの症状

その後、世界的には患者数が減っていますが、日本では今年に入り患者の報告が増加し、6月14日時点で176例が確認されています。

2022年5月以降の国際的な流行では、性的接触を含め、感染した人の皮膚の病変などへの接触による感染が中心とされており、国際的に男性同士の性的接触による感染が多いことが報告されています。

エムポックスは、中央アフリカから西アフリカのリスなどの齧歯類などがウイルスを保有しており、そうした動物との接触により人に感染することが報告されています。

しかし、昨年5月以降は、従来のエムポックス流行国であるアフリカ大陸への渡航歴のないエムポックス患者が世界各地で報告され、日本国内でも同年7月に初めての患者が報告されました。

エムポックスは、1970年にザイール(現在のコンゴ民主共和国)で人への初めての感染が確認された、オルソポックスウイルス属のエムポックスウイルスによる感染症です。

世界的には減少傾向だが日本では今年に入り患者増加